

図1：スマートガレージ実現のための障害トップ5と、その解決策

トップ5の障害	解決のための戦略	次段階のプロジェクト
消費者需要が不確かなため、自動車メーカーは電気自動車（×EV）を量産できない	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育プログラム ・需要掘り起こしの定量化 ・デモプログラム実施による需要拡大パターンの把握 ・量販車プログラムの活用 	<p>消費者需要掘り起こしプロジェクト：Project Consumer Demand</p> <p>共同プロジェクトで、人がなぜPHEVを買うべきか - という思わず引き込まれるようなストーリーを作り上げるとともに、自動車メーカーがEVの消費者需要を定量化する作業とあわせて、自動車メーカーのEV生産計画の作成と公表を支援する</p>
誰がEV充電インフラへの投資をおこなうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の信頼感を得るための戦略的配置 ・公益を強調して、公的資金を利用 ・充電ステーション周りでの革新的なビジネスケースの開発 	<p>準備プロジェクト：Project Get Ready</p> <p>PHEV革命でリーダー格になることを標榜しているいくつかの市と協働して、ガソリン車よりもEV車を保有する方が得となるような経済/ライフスタイル/サービス/付加価値面でのインセンティブを創造し、そのような初期EVオーナーの経験を共有しながら、大規模導入に向けてシステムを洗練化する</p> <p>充電、充電プロジェクト：Charge Baby Charge</p> <p>充電インフラがもたらす種々のタイプの価値をはっきり定量化して、公的/個人投資家にEV/PHEVを採用することのビジネス機会と問題点をクリアにする</p>
高価なバッテリー / 重要なパラメタの不確か性	<ul style="list-style-type: none"> ・先行投資のコストを縮小するための、二次電池市場の検討 ・安定供給 ・リベート/政府補助金 ・車としての効率を考えた適正サイズのバッテリー 	<p>中古バッテリープロジェクト：Project Second Life</p> <p>EVの使用済みバッテリーの定量化と価値の分析を行い、それらをどう有効利用すればよいかを検討する</p>
電力使用の規制との整合性	<ul style="list-style-type: none"> ・主要連邦規制機関へのロビー活動 ・均一のフレームワークづくりを目指した自発的で、広範囲の連係 	<p>全米公益事業政策プロジェクト：National Utility Policy Project</p> <p>地域によってばらばらな現在の規制の障害を取り除くことによって、スマートガレージ・パラダイムの実現を可能とする公益事業政策/規制の国家的枠組みを構築するためのコンソーシアムを設立する</p>
通信、支払、および充電管理サービス/構造がない	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションを可能とする、堅牢かつ柔軟な標準の設計 ・デファクト標準があれば、それを採用 ・現在進行形で標準作成作業が行われている場合、それを周知徹底 	<p>かわりプロジェクト：Project Get Involved</p> <p>できるだけ多くの、広範囲な視点から標準策定プロセスにかかわることを旨とする</p>